聞いてきました！　まちの声

表紙によせて VOL.26

若い力で支える林業の未来

Mt.Agri 代表　栗原（くりはら）　竜太（りゅうた） 氏



矢部村で林業に携わる栗原竜太さん。祖父、父と続く林業の家に育ち、２０代前半から林業の道へ。現在はMt.Agri（矢部村）で代表を務めながら、矢部村愛林クラブで活動し、１１月１２日（木）に沖縄県で開催される「林業研究グループ九州地区交換研修大会」で活動実績を発表されます。林業の魅力や課題、これからの八女の林業についてお話をうかがいました。

林業を始めたきっかけは何ですか？

祖父、父と林業をしていましたが、高校卒業後は一般企業に就職しました。当時は林業に危険なイメージもあり、父からも無理に継ぐよう言われたことはありませんでした。２０代前半で仕事を辞めて実家に戻った際、父から声をかけてもらったことをきっかけに林業を始めました。小学生の頃には杉の苗植えや下草刈りを体験しており、今では自分が子どもたちに教える立場になっています。

林業の楽しさと大変さは？

体を動かすことが好きで、自然の中で働けることに魅力を感じています。一方で、常に危険と隣り合わせなので、安全管理には特に気を配っています。自然を相手にしながら、自分の思った通りに仕事ができた時には大きな達成感があります。

大会への意気込みは？

矢部村愛林クラブの活動実績を発表します。長い歴史をつないでこられた先輩方のためにも、「小さな村でも頑張っている」ということをしっかり伝えたいです。九州地区大会で選ばれると全国大会につながるので、良い発表ができればと思います。

これからの八女の林業に必要なことは？

まずは若い人の参入です。高齢化が進む中、一緒に働く同世代の仲間がもっと増えてほしいです。また、八女は県境にあるため、木材が市外や県外へ流れることも多く、八女を中心に木材が循環する仕組みができれば、林業の発展にもつながると思います。

市議会へのメッセージをお願いします。

林業を続け、仕事をさらに発展させていくためには機械の導入が必要ですが、高性能な林業機械は非常に高額です。若い人や親元で林業を始める人が参入しやすいよう、機械導入などへの支援を充実させてほしいです。また、専業だけでなく、副業や兼業で林業を担い、地域を支えている人もいます。そうした人を守ることは、自分の山だけでなく、地域全体を守ることにもつながります。地域の実情に合った支援の仕組みができればと思います。

編集後記

現代社会に出現した人工知能（ＡＩ）。何かを問えば瞬時に正確に、しかも応用まで答えてくれる。挨拶文やお礼状、謝罪文や反省文はＡＩにとっては得意分野。それだけに留まらず、人の言動まで教えてくれる。昭和30年代生まれの私には驚きと共にどことなく虚しさが交錯する。相手に自分の気持ちをしっかりと伝えたい言動を果たして人工知能が作り上げる事が出来るだろうか。心からの感謝、心からの謝罪、心からの反省、そして心からの心配などを伝えるのに十分だろうか。思いやりや労い、尊敬など人として誰もが持つその思いはＡＩをもってしても伝わらないかもしれない。時代の変化、進化と共に私たちも対応していかなければならない。ただ、どれだけ時代が変わっても人として決して変えてはいけない大切なものがあるような気がする。もしこの先、感情を持ったＡＩが出現したなら人間としての存在感が薄れてきそうな。そんな事を思うと、今度は期待と恐怖が交錯する今日この頃である。　小山　和也

発行責任者
議長　橋本正敏

広報委員会
委員長　古賀邦彦
副委員長　水町典子
委員　服部良一
委員　高山正信
委員　小山和也
委員　原田英雄
委員　久間寿紀
委員　坂本治郎
委員　花下主茂

議会を傍聴しませんか？

次回定例会：12月２日（水）予定

八女市役所本庁舎４階議場午前１０時から
八女市議会事務局TEL:２３-４９２２
※日程は変更になることがあります。